

令和元年度 平成30年7月豪雨災害にかかる説明会について

高梁市では、岡山県と合同で豪雨災害に係る被害状況及び今後の取り組みについての住民説明会を開催しましたところ、多くの方にご出席をいただき、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

引き続き、市民の皆様の生活再建の支援に取り組んでいきますので、ご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、会議での主な意見は次のとおりです。

1. 開催日及び参加者数など

開催日	場 所	参加人数
6月13日（木）午後7時から	玉川市民センター	約50名
6月18日（火）午後7時から	落合市民センター	約80名
6月19日（水）午後7時から	有漢地域局	約50名
6月21日（金）午後7時から	川上総合学習センター	約100名
6月24日（月）午後7時から	備中地域局	約50名
6月28日（金）午後7時から	成羽文化センター	約80名
7月22日（月）午後7時から	川面市民センター	約40名
7月31日（水）午後7時から	高倉市民センター	約40名
8月 6日（火）午後7時から	中井市民センター	約20名
8月25日（日）午前9時から	広瀬集会所	約10名

2. 出席者

高 梁 市：市長 他

岡 山 県：備中県民局高梁地域事務所建設部長 他

中国電力(株)：東部水力センター所長 他

3. 主な意見（要旨）

（1）河川について

①河川整備について

Q1：総社から南の高梁川では目に見える形で工事が行われているが、高梁では工事ができていない。今後の状況はどうか。

A1：豪渓から下流は国の直轄管理区間であるので早いかもしれない。（市）
県管理区間については、現在「河川整備計画」の見直しを進めており、計画の内容を踏まえて、できる対策から進めていく。（県）

Q2：玉田川のバックウォーターで玉川地域は浸水した。浚渫のほかにバックウォーターを起こさない対策があるか。

A2：本川の水位に合わせて堤防を作るか、本川の水位を下げるかの2種類しか対策はない。実現性と合わせて検討する。（県）

Q3：河川整備計画はいつできるのか。

A3：現在総社市から新見市まで測量を行っているが、計画の見直しには少なくとも2～3年ほどはかかる見込みである。（県）

②堆積砂の浚渫について

Q1：野瀬広瀬のあたりは土砂がどの程度堆積しているのか。毎年少しずつでも取ってほしい。

A1：堆積量は細かい測量がまだできておらず把握できていない。相当堆積していることは認識している。予算が限られている中で、どうやったら効果的にとれるか工夫していく。（県）

Q2：高梁川は年々堆積しており、土砂を取ってもらわないと今後のことが心配だ。

A2：昨年の7月豪雨災害で異常堆積したものについては緊急に浚渫を行っている。引き続き対応していきたい。（県）

（2）ダムของ放流について

①事前放流について

Q1：中国電力㈱と市との連絡体制はどうなっているのか。また、どのような通知を行っているのか。

A 1 : 担当者へ電話と専用のFAXで行っている。(市)

Q 2 : 新成羽川ダムが事前放流することにより、大雨時において高梁川と成羽川の合流地点でどの程度水位が下がるのか。

A 2 : 昨年の7月豪雨で試算した結果、広瀬付近で20cm程度下がる。合流点付近での試算は行っていない。(中国電力株)

Q 3 : 昭和47年災害の時に新成羽川ダムが事前放流をしていれば、こうならなかったのではないか。

A 3 : 洪水調節機能は持っていないので、基本的には入ってきた水をそのまま流すことになるが、流入量より多く放流していない。(中国電力株)

Q 4 : 今回事前放流するにいたった要因は何か。

A 4 : 新成羽川ダムは利水ダムではあるが、周辺の住民や行政等からの要望を真摯に受け止め、地域との共存共栄を図っていくために、治水協力させていただくこととした。(中国電力株)

②放流時の広報について

Q 1 : ダム放流時に広報車が走っているが、何を言っているのか不明である。もう少しゆっくりと放送してほしい。

A 1 : 広報車は聴き取りにくいという意見は多々いただいている。事前放流については、防災ラジオでも広報していく。避難情報、気象情報なども含めさまざまな媒体で伝達するので、皆さんでも確認をしてほしい。(市)

(3) 復旧状況について

Q 1 : 災害から1年経って、具体的な話が聞けると思っていた。

A 1 : 現在復旧作業を鋭意進めている。復興へ向けての具体的な内容は、復興計画の実施計画に載せている。順次進めていきたい。(市)

Q 2 : 復旧にあたって多額の費用が必要だと思うが、どうしていくのか。

A 2 : 財源については、国に要望しているが、今後は復旧、復興が最優先となることから、一般施策についても見直しが必要と考えている。(市)

Q 3 : 小規模の災害の時に、チケットをもらい原材料を支給してもらって地元で直しているが、高齢者が多く人夫が少なくなっている。業者に来てもらうようにはできないか。

A3：公共土木災害は60万円以上、農林災害は40万円以上が補助対象となる。それより小規模については、50万円を限度として材料や機械借上げ料、保険料等を市が補助するが人夫賃は対象外となっている。(市)

Q4：市道通行規制をホームページで告知しているが、3月から更新がされていない。どうなっているのか。

A4：月に一度更新することにはしている。できるだけ適宜更新するようにする。(市)

(4) 避難について

①避難所について

Q1：避難所の開設を1カ所ではなく複数して欲しい。職員が足りないので、防災士などの有資格者でも運営できるようにしてはどうか。

A1：有漢では、設備が完備している地域局が妥当ではないかと思う。地域の中で、一時的な避難の場所などについては検討していただきたい。

また、職員も限られている中、ご提案の防災士や地域の方々により避難所の開設、運営は必要だと考えている。研究していきたい。行政と地域とが協力して、一緒に地域の防災力を強化していきたい。(市)

Q2：津々農村生活改善センターはテレビもなく情報も入ってこない。トイレも男女共用でバリアフリーでもなく施設改善が必要だ。

A2：中井小学校の避難使用も含めて地域の方の意見を伺いながら避難所のあり方を検討したい。(市)

②避難情報の発令について

Q1：地域には高齢者が多く、また体の不自由な方もいる。早めの避難周知をお願いしたい。

A1：明るいうち、早めに情報を出すこととしている。(市)

③自主防災組織について

Q1：自主防災組織は当然必要だと考えるが、高齢化でできるか不安である。

A1：川上町全体での防災組織でも良いと思う。市も話し合いには参画させていただき協力をする。(市)

(5) 内水排除対策について

①雨水ポンプについて

Q1：阿部地区内で市場が一番土地が低い。ポンプの処理能力は十分なのか。

A1：時間雨量53ミリの雨に対応できる内水排除を目的とした落合雨水ポンプ場(排水能力250m³/m)の整備を計画している。(市)

②水路整備について

Q1：成羽の地域で内水による浸水があった。今後の対応はどう検討しているのか。

A1：今年度から全体的な調査をする。対策は今後考えていきたい。(市)

(6) 防災ラジオについて

Q1：防災行政無線に代わるものであるという認識であるが、なぜ申し込みが必要なのか。全戸配布が良いのではないか。

A1：市全体で普及率が40.7%しかなくまだまだ低いと感じている。令和2年度までの申し込みとするので、是非各家庭で申請していただきたい。町内会等でとりまとめて申請していただいてもかまわない。(市)

Q2：防災ラジオの火災情報で、住所を云われてもどこかわからない。個人の名前等を言ってはいけないのか。

A2：個人の名前は出さないこととしている。ただし、団員等に直接連絡する際には、名前を伝えている。市のメール配信では地図情報もつけている。(市)

(7) 県道通行規制について

Q1：降雨時に県道の新見川上線のゲートが閉まるのが年に3回程度ある。陸の孤島状態になるが、改善の余地があるのではないか。

A1：事前通行規制については、新見川上線では時間雨量35mm、連続雨量150mmで規制となる。昨年の災害を受けて、暫定的にさらに厳しい基準の時間雨量30mm、連続雨量120mmに変更している。暫定基準は、災害復旧工事が完了次第もとに戻す。まずは防災対策を進めていきたい(県)

Q2：事前通行規制の解除のパトロールは、道路サービス委員というのも地元にいるのでその人たちを活用してはどうか。

A2：パトロールは専門的な知識も必要となる。岡山県の責任として職員が自ら確認し、開放させていただく。(県)

(8) 河川カメラについて

Q1：長屋橋への河川監視カメラの設置はいつ頃になるのか。

A1：高梁川、成羽川で7台カメラを設置する。すでに3台は設置済みで市のホームページで見ることができる。9月末までには設置を完了し、吉備ケーブルテレビで出水期にリアルタイムで放送を行う。(市)

(9) 消防団確保について

Q1：消防団は災害時に有用であるが、地域で消防団員は減少している。中山間地域ではOBも非常に力となっているが70歳での定年は検討してもらいたい。

A1：70歳を目安にすることは、消防団のあり方検討会で決定しお願いしている。人材の確保が難しいことは承知しているが、70歳はひとつの区切りとして、地域防災において活躍の方法は消防団以外にもあるのではないかと思う。(市)

(10) 陸閘について

Q1：阿部陸閘の閉鎖はどの業者に依頼するのか。また運用はどうするのか。

A1：阿部陸閘の閉鎖は今年度は本多組に依頼している。高梁水位観測所の水位が3.8mで現地の状況確認、4.4mで業者に現場待機指示、4.8mを超えてさらに水位の上昇が見込まれる場合に閉鎖を行うこととしている。

(県)

(11) その他

Q1：チェリーゴルフクラブの調整池は安全か。流末は損傷している箇所もある。

A1：(県への確認では) 県土保全条例で認可を行っており、工事完了後は所有者の責任において管理することとなる。(市)